

牛群検定通信 No101

～検定日前一週間の気象～

「7月豪雨」、「命の危険のある猛暑」に続いて、台風21号と大きな気象災害が続いています。もちろん、酪農への影響も甚大です。これまで、検定成績に検定日気象情報を掲載しておりましたが、「検定日前一週間」という新しい気象情報を追加しましたのでお知らせします。

1 牛群検定気象情報カウダス

我が国が世界に誇る気象庁のアメダスは、世界でも最先端の気象システムです。この世界最先端のアメダスを牛群検定で取り入れ、牛群検定気象情報カウダスとして検定成績表等に表示しています。

カウダスは、あなたの牧場から最も近くに設置されているアメダスの気象情報です。アメダスは全国に約800箇所設置されており、あなたの牧場からは平均で約10kmほどの距離に設置されているものです。牛舎の気温ではありませんが、十分に活用できるものです。

ちなみに、カウダスとはカウ（牛）とアメダスを繋げた造語です。

2 検定日気象情報

検定成績表の1枚目の最上部に検定日気象情報が表示されていますのでご覧ください。これはカウダスによる情報となります。検定日における平均気温、最高気温、最低気温、降水量、日照時間および降雪量（冬季）が表示されています。これらの情報は暑熱対策や防寒対策の参考として利用出来るものです。

3 検定日前一週間の気象

この9月から表示される新しい気象情報です。前述した従来の気象情報は、検定日一日の気象なので、季節の変わる時期などは、どうしてもたまたま暑かった、たまたま寒かったという感覚が付きまといまいます。このたまたまという感覚を補足するために「検定日前一週間」という気象情報を表示することとしました。検定日が8月15日であれば、検定日前一週間は、8月8日～14日の7日間の気象となります。「平均気温」は7日間の平均気温、「最高（最低）気温」は7日間での最高（最低）気温となります。「積算降水量」とは7日間で降った雨の合計となります。

4 活用法

代表的な活用事例は次の通りです。なお、効率よく送風扇で風を当てれば、風速1～2 m（家庭用扇風機の「弱」程度）でも体感気温を約6度下げることができます。

- ・最高気温が24度以上で乳量が減量するので、暑熱対策が必要です。
- ・最高気温だけでなく、平均気温でも23度以上で初産牛、21度以上で2産以上の牛の乾物摂取量が減少し始めるので暑熱対策を行う必要があります。
- ・最低気温が23度以上の場合は、24時間送風等の暑熱対策が必要です。
- ・最低気温が13度以下の場合は、子牛の防寒が必要です。